

第56回(令和3年度) 優秀畜産技術者賞受賞者業績概要のご紹介

一般財団法人日本中央競馬会弘済会の助成を受け実施している優秀畜産技術者表彰の受賞者の決定について本誌2022年4月号にてお知らせいたしましたが、6月に開催を予定していた表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催を中止いたしました。そこで、紙面にて受賞者の方々の功績について概要をご紹介します。

受賞者のみなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。おめでとうございます。

(敬称略)

石川 翔 兵庫県立農林水産技術総合センター 淡路農業技術センター 畜産部 主任研究員

乳牛の繁殖管理に関する研究を中心に成果を上げている。県下酪農家の牛群検定成績を基に繁殖性と栄養管理状態との関連性を解析し、繁殖成績改善指針をマニュアルにまとめた。さらに、乳牛の周産期疾病リスクおよび繁殖性の評価に関する研究でR2年度筑波大より博士号を授与された。

石川 寿美代 岐阜県畜産研究所 養豚・養鶏研究部 主任専門研究員

長年にわたり鶏に関する試験研究に携わり、高付加価値鶏卵の開発、飼料用米の鶏への給与に関する研究などで大きな成果を上げている。また、県のブランド地鶏「奥美濃古地鶏」の改良に取り組み、ゲノム育種による増体性、食味性の改良を進めるなど、ブランド発展に貢献している。

内倉 健造 愛知県農業総合試験場 畜産研究部 主任研究員

愛知県の種豚として利用されている系統豚「アイリスW3」の造成およびデュロック種系統豚の造成などの育種改良とともに、それらの優良な遺伝資源の保存・活用を目的に豚胚の採取・作出に関する研究を行い、近年の東海地方のCSF発生時には県内種豚の保護に貢献した。

佐分 淳一 独立行政法人家畜改良センター 改良部 情報分析課 乳用牛評価第1係長

遺伝子解析業務で2つの特許を取得し、牧草の品種鑑別および肉用牛の肉質向上に重要な貢献を果たし、乳用牛の遺伝的能力評価業務に従事する中で、ゲノム情報である塩基多型(SNP)情報を利用した遺伝的能力評価(ゲノミック評価)を日本に初めて導入し、我が国の乳用牛の改良速度を大幅に向上させ、乳用牛改良に多大な貢献を果たした。

谷川 珠子 北海道立総合研究機構 農業研究本部 酪農試験場 酪農研究部 乳牛グループ 主査

飼料および飼養の両分野から研究を行っており、酪農研究の主要なテーマである飼料自給率の向上、疾病低減、乳生産向上に寄与する成果を示した。これらの開発技術は酪農試験場のHPで公開されるとともに、北海道内の普及指導員講習会、生産者への技術支援を通して、いずれも着実に普及・活用されている。

特別受賞

日高 健雅 広島県立総合技術研究所 畜産技術センター 育種繁殖研究部 主任研究員

経膈採卵技術と体外受精技術を用いた登録可能なウシ受精卵の公設試による大量生産体制(年1,000個以上)を構築した主要メンバーであり、特にこの体制の鍵となる技術であるガラス化胚のダイレクト移植が可能な保存器具を発明した。この器具の活用により、凍結胚を上回る受胎率(60%)を実現した。

特別受賞

福田 昌治 埼玉県農業技術研究センター 担当部長

病性鑑定、家畜防疫および育成牧場の業務を通して国内で高頻度に遭遇する成牛下痢症について広く調査を重ね、その原因となる主要な5種のウイルスを同時検出するマルチプレックスRT-PCR法を開発した。全国の家畜保健衛生所で同法による牛下痢症ウイルスの検査が進み、その実態解明に貢献した。

福原 絵里子 福岡県農林業総合試験場 畜産部 専門研究員

卵用鶏、肉用鶏の飼養管理技術、家畜排せつ物や衛生害虫に関する広い分野で成果を出している。特に、高付加価値鶏卵生産技術や、福岡県産ブランド地鶏「はかた地どり」を新しい交配様式に変更して性質および肉質を改善した成果は、普及に大きく貢献した。

藤森 祐紀 長野県畜産試験場 酪農肉用牛部 研究員

肉用牛担当の研究員として、自給飼料と地域の食品製造粕類など未利用資源を活用した発酵TMRによる肥育技術について研究を行い、技術の普及に努めた。近年は、牛受精卵の効率的生産技術に関わる手法を開発し、優良後継牛の生産に貢献した。また、子牛や枝肉の共進会では審査員を務め肉用牛生産基盤の強化に寄与した。

三谷 英嗣 香川県畜産試験場 養鶏担当 主席研究員

長年に渡り県の畜産関係業務に従事し、特に養鶏について、県特産鶏「讃岐コーチン」の肉用タイプ、卵用タイプの作出およびそれらの高付加価値化、さらには新特産鶏「オリブ地鶏」の開発・商品化を手がけるなど、地域資源を活用し、ブランド化できたことは県内畜産の発展への大きな貢献となった。